

NIEで新聞に親しもう

～つながり・学び・発信するNIE～

三木市立中吉川小学校 校長 岸本 公一
教諭 下田 広行

1. はじめに

NIEの取り組みは、今年度で2年目である。テーマは、「NIEで新聞に親しもう～つながり・学び・発信するNIE～」である。本校では昨年度、新聞スクラップ活動を通して、社会と自分自身とのつながりを模索する活動を行った。この活動では、新聞を社会と自分自身とを結びつける「窓口」と位置付け、児童の興味関心を高めていくことができた。本年度は、学年の実態に応じた活動をし、新聞に親しみ、新聞から学び、学んだことを発信していく児童を目指して継続的に取り組んできた。また、総合的な学習にとどまらず、他の教科への実践を試み、テーマに迫る学習をしていきたいと考えた。

2. 実践の概要

① 新聞マンに変身！<2年生>

体育の表現リズム遊びで「新聞マンに変身！」に取り組んだ。「風に舞う新聞マン」「くしゃくしゃになった新聞マン」「水に浮く新聞マン」など教師が新聞を操作し、自分なりに動きを想像しながら新聞マンになりきって、体全体で大きく表現したり、チームで役割を分担して表現したりして、楽しく活動できた。最初は、ほとんどの児童が恥ずかしがって動きが小さかったが、体全体を使って表現している児童を全体の場で取り上げたり、教師が見本を見せたりしながら動きの幅を広げ、大きく表現していく楽しさを実感できた。新聞の活用により子どもたちのさまざまな動きを引き出すことができた。

[児童の感想]

体育の「新聞マンに変身しよう！」で、新聞マンになりきって、くしゃくしゃになりました、風に舞ったりして、いろいろな動きができて楽しかったです。



《新聞マンに変身！》

② 新聞エコバッグを作ろう！<2年生>

図工の学習で新聞エコバッグを作つてファッションショーを行つた。子どもたちは、作り方マニュアルを見ながら意欲的に新聞エコバッグを作つていた。そして、モデルになりきつて新聞エコバッグを持って、ファッションショーを行つた。新聞は情報を得るだけではなく、エコバッグを作つて活用できることを知つた。

[児童の感想]

新聞からバッグなどの生活で使える物を作り出せるこつを初めて知りました。家でも家族と一緒に作つてみました。



《新聞エコバッグを作っている様子》

③ 新聞スクラップを作ろう！<5年生>

新聞を読んで、好きな記事を切り抜き「スクラップ」にする。それを用紙に貼り付け、記事を読んだ感想を書く活動に取り組んだ。主に家庭学習として児童に取り組ませた。週に1度程度だったが、これまであまり新聞を読まなかつた児童も多くが、これを機会として新聞を読む時間が増えた。また、他の人にも自分の選んだ記事についての感想を書いてもらい、別の見方や、自分とは違う考えにも触れることができた。

[児童の感想]

「新聞スクラップ」をして、新聞にはいろんな記事が載っていることが分かりました。これまでではスポーツのところとテレビ欄と4こま漫画しか見てなかつたので、これからはいろんな記事を見たいです。



《新聞スクラップを作ろう！》

④ テレビ欄の秘密<5年生>

社会科の「情報化社会とわたしたち」で、

テレビ欄の秘密を探した。新聞のテレビ欄を使い、「ニュース」「ドラマ」「スポーツ」などを色鉛筆で色を付けながら仲間分けをし、それを見ながら学級で秘密について考えた。テレビ欄をじっくり見てみると、「ニュースが最も多い」ことや、「朝はニュースや情報番組ばかり」「平日より休日の方がバラエティー番組が多い」など、テレビ番組が視聴者のことと考えて作られていたことに気付いた。

[児童の感想]

テレビ欄から休日や平日など時間帯によって視聴者がどのような番組を見ているのかがよく分かった。



《テレビ欄の秘密》

⑤ 新聞の読み比べ<5年生>

教室前の廊下に、その日の新聞を並べて、いつでも見られるようにしている。子どもたちは、休み時間に進んで読んでいた。その時に、ただ新聞を読むだけではなく、いろんな新聞の1面を読み比べようと伝えている。同じ事件があっても記者によって写真の使い方や記事の書き方には違いがあることを授業で学習した。

[児童の感想]

新聞社によって、同じ出来事でも違う書き

方なのにびっくりした。書き手の思いがたくさん詰まって記事ができているのだと思った。



《新聞の読み比べ》

⑥ 新聞社の記者派遣<5・6年生>

神戸新聞社北播総局の吉岡猛逸総局長に来ていただいて、新聞記事の書き方や新聞記者の一日について教えていただいた。教科書には載っていない生の声を聞くことができて、子どもたちは興味津々でした。また、新聞の作り方や型番、見出しなど、これまで注目していなかったところにも目を向ける良い機会となった。

[児童の感想]

神戸新聞の方のお話を聞いて、見出しの書き方や新聞についていろいろと知れて良かった。



《記者に学ぶ》

⑦ 壁新聞の作成<2年生>

「中吉川ピカピカクリーン大作戦」

2年生は、生活科の学習で地域のゴミ拾い

をしてきた。ゴミの数をランキングにしたり、自分なりに意見をまとめたりして壁新聞にまとめ上げた。新聞を効果的に見せるために、題名やリード文、見出しなど、字の色や大きさを変えると読み手にとって見方が変わることを学んだ。壁新聞は、校内に掲示したり、地域にある「山田錦の館」に掲示したりして、ゴミのポイ捨て防止についての啓発を行った。

[児童の感想]

壁新聞を初めて作りました。題名を考えたり、文字の大きさを変えたりすると、読む人にとって新聞の見え方が違うことが分かりました。



《校内での壁新聞の掲示》

⑧ 当時の新聞から考えよう<5年生>

阪神・淡路大震災の翌日の新聞を使い、防災学習をした。当時の緊迫した様子や日に日に犠牲になった方が増えていく様子を見て、子どもたちは地震の大きさを改めて感じていた。また、新聞は保存しやすい利点を伝え、他のメディアとの違いなどにも目を向けさせることができた。

[児童の感想]

新聞は他のメディアと違って保存しやすいところが良いと思う。阪神・淡路大震

災翌日の新聞を先生が見せてくれたが、そのときの様子がとてもよく分かりました。今、大きく載っている新聞を保存しておくと、いつか役に立つと思うので、残しておきたい。



《当時の新聞から考えよう》

3. 成果と課題(◎と□)

- ◎情報を読み取る新聞の活用方法だけではなく、新聞マンに変身したり、エコバッグを作ったりして新聞を活用した授業づくりができた。
- ◎低学年では、新聞の作り方を学ぶことは難しかったと思っていたが、この学習により、字の色や大きさを効果的に変えて壁新聞を作ることができた。
- ◎一つの新聞記事について、児童同士で話し合ったり、相談し合ったりする姿が見られ、社会への関心が高まってきた。
- ◎新聞記者のお話を聞き、新聞作りの秘密を知ることができた。教科書には載っていない内容で、子どもたちは満足していた。
- 低学年が情報を読み取ることは難しいので、小学生新聞のクイズ問題などを活用するなど、教材の選択が必要だと感じた。
- どの教科と新聞を関連付けるのか、教師側の

深い教材研究が必要と感じた。

□取り組んでみると、新聞を活用できる単元は幾つもあった。工夫次第で有効活用が可能を感じた。今後は、より効果的な場面設定をしたい。

□小学生にとって漢字や文字のサイズが問題となる。拡大したり、ルビを振ったりと教師側の工夫が必要であった。

4. おわりに

今年度は2年目のNIEの取り組みで、昨年度の積み重ねができるよう、学年に応じた学習内容を計画した。実践をしていく中で、以前よりも新聞に目を通す子どもが増え、新聞から情報を得ることに抵抗がなくなってきた。

また、NIEの活動を通して、朝の会や授業中などに時事的な話題を出しても、反応してくるようになり、政治や社会の動きに興味を持つ子が増え、家でも新聞に目を通す児童が以前より増えた。

学年に応じた取り組みということで、低学年に新聞を活用して、どのような授業づくりをするかで悩んだ。新聞を使って授業をする際に、ただやみくもに新聞を使うのではなく、子どもたちにどんな力を付けさせたいか、どんな活動にしていきたいかなど、学習の見通しをより明確にしていく必要があると感じた。

また、NIEを教科の枠を超えた横断的・総合的な学習として捉え、どんな教科で新聞を使った学習ができるかを学習指導要領や指導内容などを考慮しながら検討していく必要があると感じた。

今後も、自分と社会をつなぐ生きた教材である新聞を活用して、子どもたちの社会への興味・関心を高めていきたい。